

乳児室内に設けられた遊戯階段にみるゼロ・1歳児の行動特性

高橋 博久

(名古屋工業大学工学部 講師)

▷はじめに 生後10ヶ月頃の乳幼児の生活をみると、生活空間に対する定位的な調整を盛んに行なうことから、これを第2の新しい発達力の出現とみる指摘(*1)もあります。ゼロ歳から1歳にかけてのこの時期にある児童の為に、積極的に活動できる空間的条件を整えることは、児童の発達を考えるととりわけ重要な事柄であると言えるでしょう。こうした保育空間の整備課題に対応して、名古屋にある小規模保育園のうちに、階段と斜面を舞台で結び、組み合わせた遊戯階段を乳児室の中に設けている例(*2)がいくつかあり、その成果が目玉されます。

▷研究目的 本研究の目的は、遊戯階段におけるゼロ・1歳児の行動観察から移動形態や遊びにみる行動特性をとりあげ、遊戯階段の持つ役割を検討し、更に遊戯階段の設置のための知見を得ようとするにありま

す。

▷研究方法 乳児室に遊戯階段を設けている小規模保育園3園(A保育園、B保育園、C保育園)において、ゼロ歳児クラスの園児計31名(生後40週から85週)

〔表-1〕を対象に遊戯階段での行動観察を行ないました。行動観察は課業時を避け、自由遊びの時間帯で、各個体別に5分間を単位に行ないました。

観察は行動記録ノートの作成とともにビデオ撮影を併用し、合わせて担当保育士から対象児の発達特徴をヒアリングし以下の検討のための資料としました。

▷前提事項 まず各保育園に設置されている遊戯階段の形状、寸法を測定し、一覧表〔図-1〕にまとめました。斜面や階段の昇り、降りの動作は児童の行動発達の水準を設定する上で重要な目安となります。ゼロ・1歳児の発達特徴から設定した発達水準〔表-2〕(*3)を用いて以下の分析を進めることにします。

▷分析-1 行動観察のなかに現われた遊戯階段の昇り降りのパターンには、①斜面昇り⇨斜面降り、②階段昇り⇨斜面降り、③斜面昇り⇨階段降り、④階段昇り⇨階段降りの4種類がみられました。発達水準別に、それぞれのパターンの平均出現回数〔図-2〕を示すことができます。これをみると、発達水準Ⅱでは「階段降り」の動作は獲得されていないことからパターン③④は全く出現せず、パターン②が斜面昇りを通じた安定したパターンとして多様に現われます。発達水準

園名	発達水準	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
A 保育園	1 (42)		2 (55) 3 (58) 4 (60) 5 (65) 6 (65)	7 (68) 8 (74) 9 (77)
	1 (40) 2 (44) 3 (44) 5 (56) 6 (56)		4 (54) 7 (57) 8 (61)	9 (75) 10 (76) 11 (77) 12 (85)
	1 (43) 2 (43) 3 (44) 4 (57)		5 (58) 6 (58) 7 (59) 8 (61)	9 (65) 10 (80)

〔表-1〕対象児と個体番号(生後週齢)

部位		保育園	A 保育園	B 保育園	C 保育園
舞 台	A		2 2 3	2 4 3	1 7 3
	B		8 0	8 0	5 3
	h ₁		7 5	7 5	7 2
	h ₂		6 4	5 5	4 5
斜 面	C		2 1 7	2 3 0	1 3 0
	D		5 2	3 0	2 0
	E		6 4	6 1	6 8
階 段	F		4 5	5 8	5 0
	a		1 5	1 5	1 2
	b		2 5	3 0	2 0

〔図-1〕対象とした保育園にみる遊戯階段の形状、寸法

斜面昇り		Ⅱ
①	③	3.0
斜面降り	階段降り	1.0
②	④	
階段昇り		Ⅲ
2.0	1.5	9.1
1.8	1.4	2.9
		Ⅳ
		1.0
		1.0

〔図-2〕遊戯階段の昇り降りパターンの平均出現回数(5min.)

発達水準	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	V
歩行能力	はよくなる	横り降りする つかまり立ちする 階段を登る 伝い歩をする	横りでイスから降りる 階段を降りる 降り立つ 横りでイスに渡る 歩く	横り降りする つかまり立ちする 階段を登る 伝い歩をする	走る
物受能力	—	玩具を両手で取り出す つまんで食べる 玩具を口でかじる コップから水を飲む 二重でかじるものを噛む おもちゃを 自分の名前がわかる	玩具を両手で取り出す つまんで食べる 玩具を口でかじる コップから水を飲む 二重でかじるものを噛む おもちゃを 自分の名前がわかる	玩具を両手で取り出す つまんで食べる 玩具を口でかじる コップから水を飲む 二重でかじるものを噛む おもちゃを 自分の名前がわかる	玩具を両手で取り出す つまんで食べる 玩具を口でかじる コップから水を飲む 二重でかじるものを噛む おもちゃを 自分の名前がわかる
表現能力	—	—	—	—	—

〔表-2〕発達特徴を尺度とした発達水準表(*3)

Ⅲでは、各パターンがそれぞれ現われ、発達水準Ⅳになるとふたたびパターン①が多く現われるようになり、斜面降りを楽しみパターン③④は少なくなります。発達水準が高まるに従って、遊戯階段の昇り降り回数は増加しますが、特に発達水準Ⅳでは顕著であることがわかります。

▷分析-2 斜面の昇り降りの動作形態をみると、「昇り方」では、①ずり落ちながらの四つばい、②安定した四つばい又は高ばい、③伝い歩き、④歩行、⑤小走りの5形態が、「降り方」では①腹ばいで頭から、②腹ばいで足から、③座って、④伝い歩きの4形態が現われます。発達水準が高まるに従って、昇り降りとも①→⑤あるいは①→④という順序性〔表-3、4〕が現われますが、各形態のなかでも勢いをつけて昇り降りしたり、遊びとの組み合わせも増していきます。

▷分析-3 発達水準ごとに、舞台上での滞在時間を移動形態別に集計〔図-3〕し、移動軌跡が単純なものとは複雑又は遊びを含む滞在とに区別します。すると、発達水準が高まるに従って移動形態は順序性をもって変化し、同じ軌跡でもより速く移動するため滞在時間は短くなることがわかります。その反面、軌跡が複雑になったり、舞台の上で遊ぶことから滞在時間が延び、ここが移動の場から遊びの場へと変化するものと考えられます。

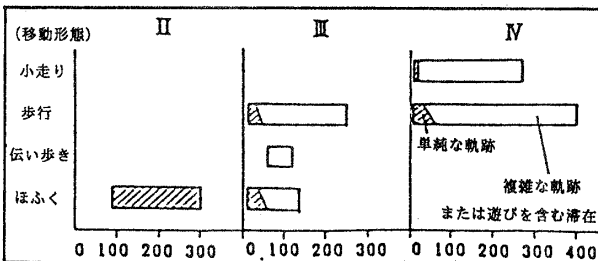
▷考察 遊戯階段の役割は、発達水準Ⅱでは移動形態獲得の練習の場であり、発達水準Ⅲでは階段、斜面の昇り降りを通じて歩行を獲得するに到る過渡期の挑戦課題を提供します。発達水準Ⅳになると活発な探索活動の対象となり、積極的な遊びの場となります。各保育園にある遊戯階段は形状、寸法の面でいくらかの違

形態分類	①	②	③	④	⑤	個体番号
Ⅱ	○					A-1, B-1, B-2, C-4
		○				B-3
Ⅲ	○					A-2, C-5
		○				A-4, B-4, B-7
			○			A-5, B-8
		○	○			A-7
Ⅳ			○			B-10
		○	○	○		B-9
			○	○	○	A-8, A-9, B-11, B-12
				○	○	

〔表-3〕発達水準別にみた、斜面「昇り動作」の形態分類

形態分類	①	②	③	④	個体番号
Ⅱ	○				B-1, B-2, B-3, B-5
		○			B-6, C-4
Ⅲ	○				A-2, A-3, B-4
		○			B-7, C-5, C-6, C-7, C-8
	○	○			A-4, A-5
		○	○	○	B-8
Ⅳ		○			C-9, C-10
			○		B-10
			○	○	A-8
		○	○	○	A-7
	○		○		B-11, B-12
	○	○	○	○	A-9, B-9

〔表-4〕発達水準別にみた、斜面「降り動作」の形態分類



〔図-3〕遊戯階段の舞台上での滞在時間と移動形態の対応

部 位	部位の役割	コミュニケーション活動	推奨する形態、寸法
斜 面	昇り	高みへ昇ることを目的とした移動は重力の抵抗を受け、ほうく形態を強化する。	積極的な昇り降りのためには、傾斜角度がゆるやかで長い斜面であることが望ましくその角度は20°長さは200～250cm程度が適当である。
	降り	自然に動的に滑り降りるアナログ的な空間ある。滑りの速さをコントロールする。	
舞 台	—	高さはそれ自体が探索の対象となり、ステージは安定した高さを、手摺はその関心を増幅する。	ステージとしての効果を持つためには、子ども達が一緒に遊べるだけの広さが必要であり、その長さは200cm、幅は80cm位が適当である。
階 段	昇り	一段ずつステップを上がるデジタル的な空間である。	単に蹴上げを低くするだけでなく、踏面の幅を25cmはとることが転落防止に有効である。
	降り	後ろ向きに降りる移動形態で、身体と空間の関わりを表象活動が必要とされる。	

〔表-5〕遊戯階段の役割、コミュニケーション活動、推奨寸法

いがある。行動観察でみた行動特性からみて、遊戯階段の各部位のもつ役割、それをもとにした推奨すべき形態、寸法〔表-5〕を提案しておきます。

▷結論 ゼロ・1歳児の遊戯階段での行動特性は発達水準が高まるに従って、移動を目的としたものから遊びへと多様に変化し、長い期間にわたって児童の生活

内容を豊富化することに役立っていることを確かめることができました。あわせて、遊戯階段として推奨する形態、寸法を提案しました。

- 1 田中昌人・田中杉恵：「子どもの発達と診断-2・乳児期後半」大月書房、1982。
- 2 高橋博久：「ゼロ・1歳児のための保育空間の構成-保育所建築・設計の到達点をめぐって」『保育の研究』第4号 保育研究所／草土文化、1983。
- 3 高橋博久：「ゼロ・1歳児の移動機能の発達からみた保育空間の役割」日本建築学会近畿大会講演梗概集 1980。